



会津医療センター ニュースレター

発行日：平成28年3月31日
〒969-3492
福島県会津若松市河東町谷沢
字前田21番地2
TEL：0242-75-2100(代表)
FAX：0242-75-2150(総務課)
E-mail：a-keiei@fmu.ac.jp
企画発行：事務局経営企画室

コンテンツ一覧

- 患者満足度調査結果公表…………… 1～3
- 当センター診療科のご紹介…………… 4・5
- 会津医療センター 救急搬送について…………… 3
- 看護部 がんピアサロンあいづ 開設…6
- 研修医の部屋 ～研修の集大成～ …… 6

患者満足度調査(外来・入院)を実施しました。

当センターでは、地域の皆様にご満足いただける医療サービスを提供するため、平成27年9月に満足度調査を実施いたしました。ご協力をいただきました患者、ご家族の皆さまに心より感謝しております。

職員の対応等で多くの患者さまに満足いただけたこと、たくさんの温かいご意見をいただけたこと、病院職員一同、大変嬉しく感じております。

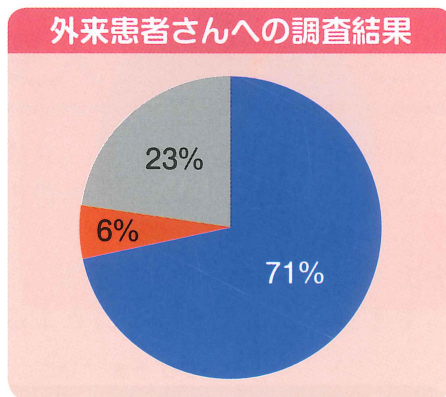
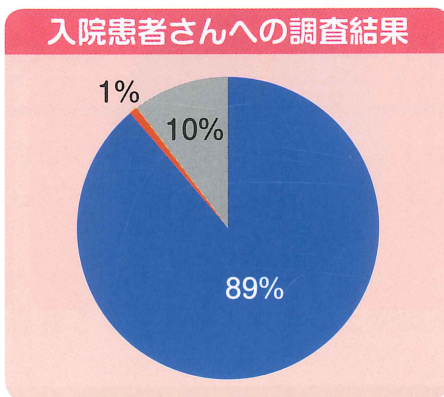
その一方で、厳しいご意見もいただきましたので、今後の接遇研修等で改善に努めていきたいと考えております。(医療サービス向上委員会)

調査結果につきましては、その一部を以下のとおりご報告させていただきます。

「家族や友人に当院の利用を勧めるか」という質問の項目では…

入院患者への調査では約90%の方が、外来患者への調査では約70%の方に「思う」と回答していただきました。

当院といたしましては、この質問に対して「思う」と回答していただける方が100%になることを目指して、努力していく所存です。

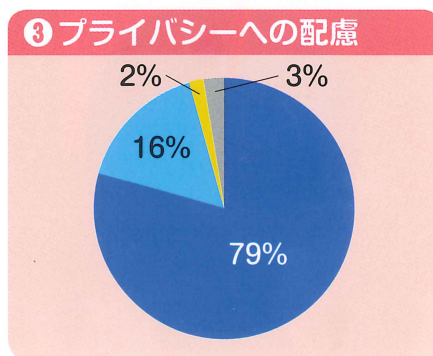
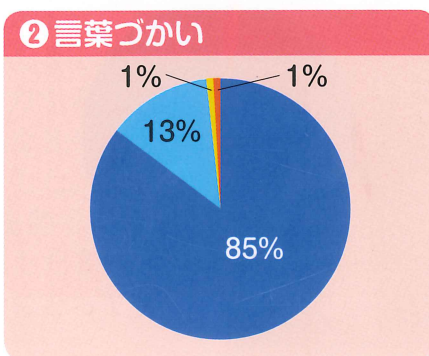
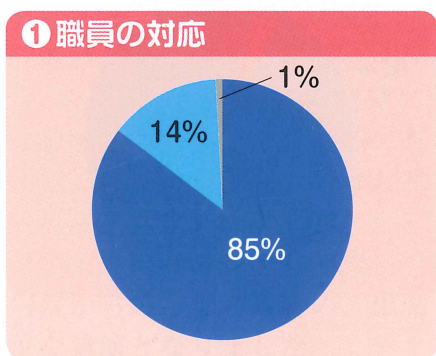


■思う ■思わない ■無回答

入院患者さま満足度調査

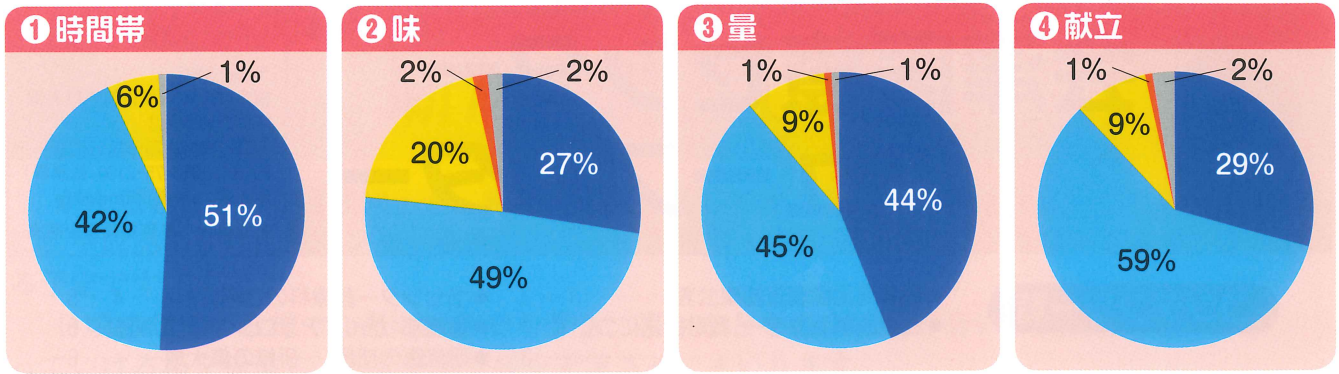
●調査期間 平成27年9月7日(月)～9月25日(金) 調査回答 116名

1 接遇について ■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答



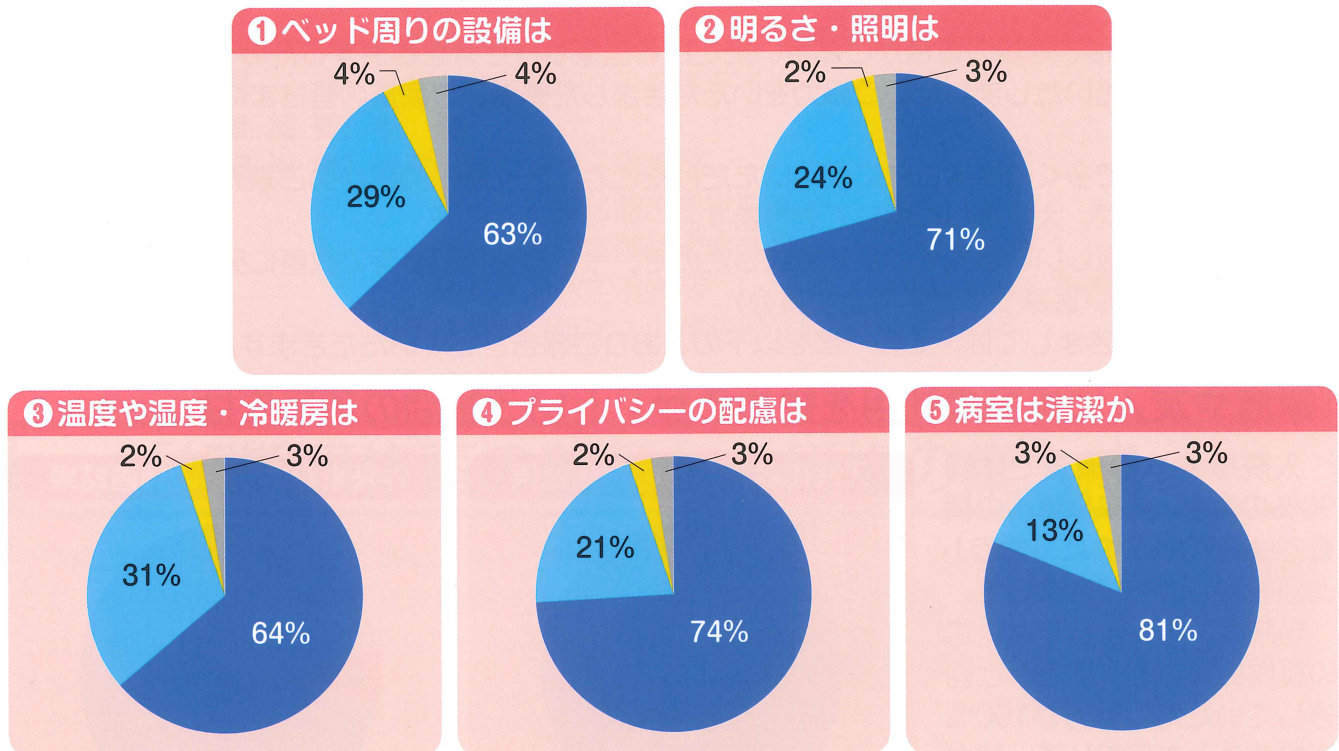
2 食事について

■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答



3 病室環境について

■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答

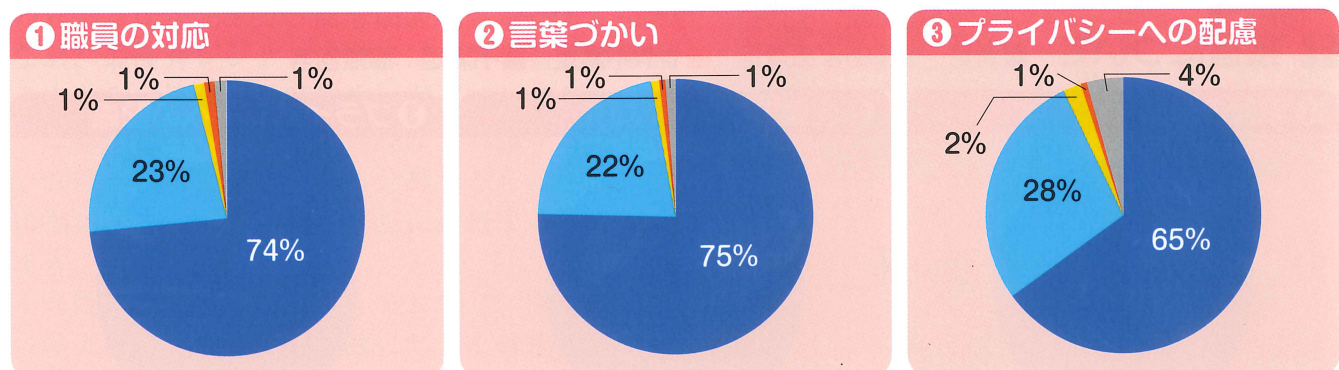


外来患者さま満足度調査

●調査期間 平成27年9月7日(月)～9月11日(金) 調査回答 424名

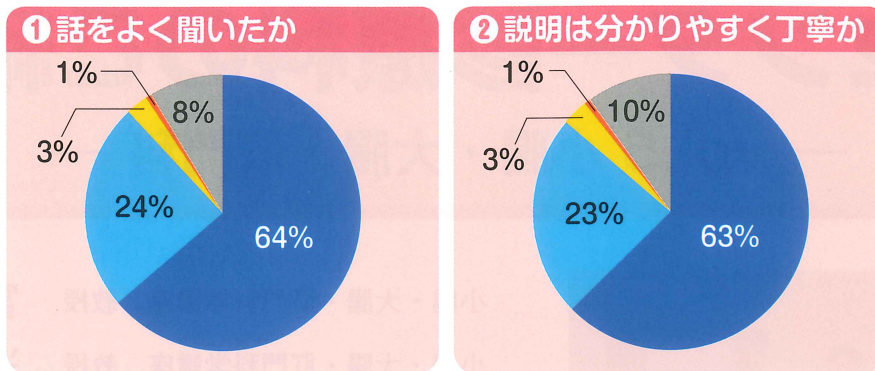
1 接客について

■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答



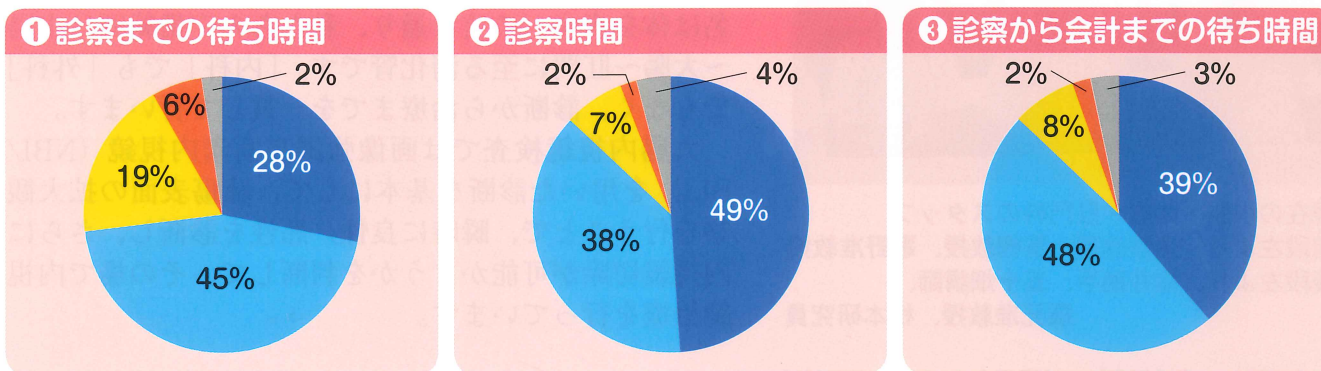
2 診療について

■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答



3 診療時間・待ち時間について

■満足 ■まあまあ満足 ■やや不満足 ■不満足 ■無回答



会津医療センター 救急搬送の受入れについて

当院は、会津若松市及び喜多方市の二次救急輪番制に参加しており、会津若松市における平成27年度の救急輪番は90日が割り振られており、内12日間は、喜多方市管内分も併せて対応することとなっています。

診療科のない疾患や常勤医のいない診療科に該当する場合など、対応出来ない場合もありますが、地域を支える病院として、患者さまを受け入れることが出来るように体制を整えております。

八戸市立市民病院救命救急センター所長 こん あき ひで 今 明秀 先生をお招きして、救命救急に関する講演会を開催しました。

平成28年1月29日(金)に当センター2階会議室にて、八戸市立市民病院の救命救急センター所長の今明秀先生をお招きして、劇的救命救急に関する講演会を開催しました。今先生は移動手術室の開発に尽力するなど救急医療の分野では全国的に有名な先生で、昨年、総務大臣表彰も受けられました。今まで自らが実際に体験したことなどを踏まえて、救命救急の在り方を熱く語っていただき、他病院からの参加者も含め、出席者にとって貴重な講演となりました。



当センター診療科のご紹介

— vol.5 小腸・大腸・肛門科 —



現在の小腸・大腸・肛門科のスタッフ
前段左より、遠藤教授、富樫教授、歌野准教授
後段左より、楡井助手、五十畑講師、
隈元准教授、根本研究員

小腸・大腸・肛門科学講座 教授 富樫 一智

小腸・大腸・肛門科学講座 教授 遠藤 俊吾

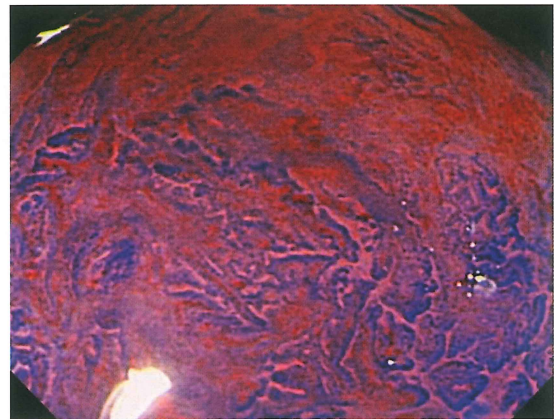
「小腸・大腸・肛門科」、聞き慣れない診療科です。名は体を表す、の言葉通り、私たちの守備範囲は小腸～大腸～肛門に至る消化管です。「内科」でも「外科」でもなく、診断から治療までを一貫して行います。

大腸内視鏡検査では画像強調高画素内視鏡（NBI/BLI）を用いた診断を基本にして、腫瘍表面の拡大観察を行うことで、瞬時に良性／悪性を診断し、さらに内視鏡切除が可能かどうかを判断して、その場で内視鏡治療を行っています。

〈実際に内視鏡で撮影された画像〉



良性の腫瘍性ポリープの表面模様
比較的同じような表面模様をしている。

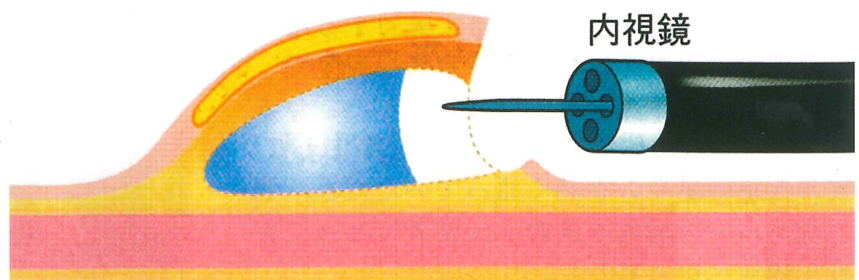


悪性(=がん)病変の表面模様
明らかに表面模様は不規則で、模様がなくなっている部分も観察される。

2013年3月まで高度先進医療であった内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を除けば、多くの内視鏡治療を入院しないで行っています。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）とは、がん組織直下の粘膜下層にヒアルロン酸などの局注液を注入し、粘膜下層を浮かせ、同部を電気メスで切り離し、がん病巣をはぎ取る方法です。

現在、このESDについては、県内で一二を争う件数を誇り、当センターにおいても安全かつ確実な治療法として定着してきております。



大腸ESDの模式図

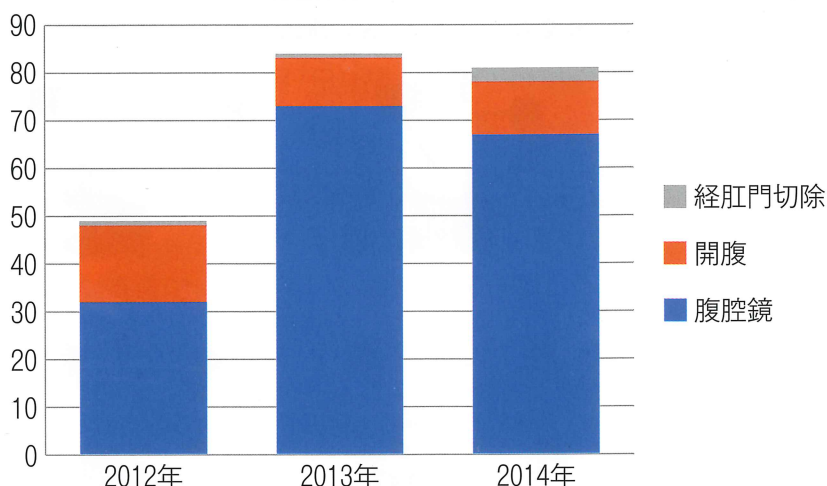
さらに大腸内視鏡を補完する検査として、大腸CT検査に積極的に取り組んでいます。大腸CT検査は、バリウムの注入や内視鏡を挿入せず、肛門から二酸化炭素を注入し、大腸が十分に拡張した時点でCT撮影を行う新しい検査方法です。検査のための下剤は大腸内視鏡検査の半分程度です。当院では最高性能のCT機種を導入しており、検査時間も約10～15分程度と短時間で患者さんに優しい検査です。このほかにも、県内で初めて導入した大腸カプセル内視鏡検査もあり、希望に応じて受けていただくことができます。

小腸カプセル内視鏡検査も随時受けていただくことができます。小腸内視鏡においては、今までは不可能だった小腸全体を観察するためのダブルバルーン内視鏡を導入しています。この内視鏡は二つの風船を膨らませたり、へこませたりすることで、尺取り虫さながらの動きで少しずつ小腸の奥へ進んでいきます。小腸カプセル内視鏡検査で異常が発見された場合には、このダブルバルーン内視鏡により治療することもできます。

内視鏡治療ができない場合は外科治療となります。当院では大腸癌手術の9割近くの患者さんに腹腔鏡手術を行っております。術後再発が危惧される方や遠隔転移がある方には手術前に抗がん剤治療を行い、病勢をコントロールしてから手術を行っています。大腸癌のうちでも治療成績が悪いとされる直腸癌に対しては、合併症の多い放射線治療は行わず、新規抗がん剤と分子標的薬による術前治療を行い、良好な成績を得ています。大腸癌の進行により腸閉塞となった場合には、人工肛門造設などの緊急手術ではなく、大腸ステントという大腸癌による狭窄を拡げる治療を行い、全身状態の回復を図ってから、腹腔鏡による根治手術を行っています。



腹腔鏡下大腸癌手術の術後創 左は2003年の手術後の画像で、手術痕は小さいものの線路状の傷跡が目立つ。右は2014年の手術後の画像で、創閉鎖も真皮縫合と皮膚表面接着剤を使用しているため、手術痕が目立たなくなっている。



左の図表は、大腸がん手術症例数を示したもの（単位：件）

腹腔鏡による手術の割合は、2012年4月以降で82.3%
2014年は85.9%となっている。

※2012年は県立会津総合病院における件数

がん患者・家族会（がんピアサロンあいづ）を新たに開設します

がん患者とそのご家族同士が、相互の交流を通して安心して在宅療養を継続していただくために、平成28年5月に当センター看護部にて、がん患者・家族会（がんピアサロンあいづ）を開設する予定です。

日頃感じている様々な思い、不安や辛さ、喜びなどを自由に語り合い、交流し、互いに支え合っていける場を提供し、がん患者支援を充実させてまいります。



- 【対象】** がんの診断を受けた患者様とそのご家族
- 【開催日時】** 毎月第2火曜日 14時～16時（H28.5.10 開設予定）
- 【場所】** 当院 6階緩和ケア病棟デイルーム
- 【参加費】** 無料
- 【担当者】** 会津医療センター看護部
 がん化学療法看護認定看護師 富田 佳加
 がん性疼痛看護認定看護師 平野 千穂
 緩和ケア認定看護師 中川みどり
 特定非営利活動法人 がんピアネットふくしま



「初期研修医の部屋」～研修の集大成～

平成28年3月7日(月)に当センター2階会議室にて、2年目の初期研修医及び鍼灸研修生の先生方が、「研修医の部屋」と題して、初期研修修了記念講演会を開催しました。

今回講演を行った研修生は、平成26年4月1日から2年間、当院や外部の協力医療機関などで様々な研修を受けてきました。その集大成及び感謝の意味を込めて、5名の先生方がそれぞれ30分ずつ、自由に演題を決めて発表しました。

先生方の発表が終了した後に、病院長より、これまで2年間の研修の中で最も優秀であった先生の表彰及び各先生方へ記念品が贈呈されました。なお、最優秀レジデント賞には4名の初期研修医の中から『遠藤 千麻先生』が選ばれました。

これからは、継続して当院にて研修する先生もいれば、自分の興味のある分野をさらに学ぶために福島県を離れて、別な病院に勤務する先生もいます。

当院で研修されたことを忘れずに、医療の進歩に多大な影響を与える医師に、または福島県の医療を支えてくれるような立派な医師になることを願います。



最優秀レジデント賞に選出された 遠藤 千麻 先生



山田 匠希 先生



鈴木 美香 先生



武田 光樹 先生



鍼灸研修生の
武田 真輝 先生